

BIM/CIM人材関連サービス 年間100人目標に強化

ウィル・オ・ブ・ベトナム人を積極活用



田中社長

させる事例も出ており、ニーズが高まりそうだ。田中社長が5日、日刊建設工業新聞社らの取材に応じ、今後の方針を明らかにした。BIM/CIM人材

派遣を2023年2月に始めた。マネージャークラスやオペレーターといった経験者に加えて、教育した人材を活用する。24年4月にはアウトソーシングサービスも開始。企画設計から基本設計、実施設計、施工計画、施工まで支援する。実施に当たっては、同国の国立大学と連携して、ベトナム人材を積極的に活用。日本語とBIMスキル

を身に付けた人を技術社員として採用し、顧客企業に配属する。来春には46人の内定を見込む。「将来的には年間100人規模でやりたい」（田中社長）。ノンコア業務を同社の派遣社員に任せて、自社のBIMマネージャーがコア業務に特化できるようにした企業や、BIM人材が少ない地方の現場ゼネコンが活用するケースが出ている。

生産性向上が急務の中で、フロントローディングを進めるにはBIM/CIMが必須とみられている。田中社長は「いずれは建設会社から必要とする人数を事前から発注してもらうスタイルになるだろう。海外から海外へのビジネスも成り立つと思う」と話している。女性の登用にも積極的に取り組むとしている。

ウィルグループの子会社で建設技術者の人材派遣などを手掛けるウィル・オ・ブ・ベトナム（東京都新宿区、田中謙社長）は、BIM/CIM人材関連サービスを強化する。エンジニア派遣とアウトソーシングが対象。ベトナム人材を活用する方針で、初弾として計22人が来日予定だ。全員の配属先が決まっている。将来的には年間100人規模を目指す。派遣などを活用することで、自社員をより高度な業務に集中

